

平成 30 年度第 2 回富山県子育て支援・少子化対策県民会議 議事概要

1 日 時 平成 31 年 2 月 21 日 (木) 13:30~15:00

2 場 所 富山県民会館 8 階 バンケットホール

3 委員発言要旨

(A 委員)

- ・今年度から町の保健センターにおいて乳幼児を持つ母親が子ども連れで集まれる場として「ママカフェ」を提供しているが、非常に好評であるので県下に広がればよい。
- ・「おうちで子育て」(※保育所等を利用していない生後 6 カ月から満 3 歳になるまでの子育て家庭に応援金の給付を実施) が非常に根付いてきており、県全体で取り組むことも検討してほしい。

(B 委員)

- ・本年 10 月から 3~5 歳以上の第 1 子からの幼児教育無償化が予定されているが、0~2 歳児については低所得者層だけに限っているので、今後そういったところも考えてほしい。

(C 委員)

- ・病気の真っ最中の子どもたちを預かる場所がないので検討してほしい。

(D 委員)

- ・本格的に保育士不足の時代に入っており、市町村単位や県単位で保育士の取り合いが始まっている。そういった点で、これまでの保育士・保育所支援センターの取組みに加え、保育士確保総合対策事業が拡充されたことは大変ありがたい。
- ・幼児教育無償化の問題にあわせ、保育の質が問われている。安全で質の高い保育所や認定こども園、幼稚園を富山県においてしっかり作っていくということがとても大事である。

(E 委員)

- ・富山へUターンする女性が男性に比べてかなり少ない。
- ・若い女性がいないまちは、なかなか活気が出てこない。今後とも、仕事面や生活面、結婚についてどういったらアプローチしていけるのかを考えていきたい。

(F 委員)

- ・児童虐待について、要保護児童対策を市町村に任せ切りではないか。
- ・児童相談所の職員について、現場に沿った資質の向上をしていただきたい。

(G 委員)

- ・平成 29 年の富山県の周産期死亡が過去最低となり、県を中心に取り組んできた周産期医療体制の整備充実の成果と思われる。安心して産める環境の整備というのは少子化対策としても重要なことで、引き続き県の支援をお願いしたい。
- ・次世代を担う女性の健康を守る観点から、子宮頸がんの予防は非常に大事なことであるので、富山県でも子宮頸がんワクチン接種を促す取組みについて検討してほしい。

(H 委員)

- ・最近いじめや不登校がとても多いが、家庭に問題があるのではないか。荒れてしまっている家庭で育った子どもたちが、将来自分も幸せな家庭を築いて、子どもをつくりたいとは絶対に思わないと思うので、そういった面からも何らかのサポートが必要。

(I 委員)

- ・県内の保育士養成の大学等 6 校から毎年約 200 名程度、県内に就職している。地元で学び、資格を取り、そして就職して、結婚、出産をすることから、(卒業生は) 地元を支える主体である。そういった意味では、地方創生の切り札ではないかと思う。引き続き、この養成校、あるいは養成の場で学ぶ若者たちへのより一層の支援をお願いしたい。

(J 委員)

- 若者支援の後に、結婚して悩んだり、子どもを持って親として悩んだりするところを切れ目なくサポートできるような場所が必要。
- 解決はしなくても悩みが言えるというような場所を作り、苦手なコミュニケーションを活性化するような仕掛けをしていくことが必要。
- 行政と家庭と地域が連携し、悩みを拾い上げていくような体制をつくっていくことが重要。